

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県石垣島

増産プロジェクトにおける令和5年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況													
生産計画の達成状況等	1 令和5年産の生産実績												
		収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
		夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
	H28年産実績	515	137	449	1,101	8,086	6,703	5,828	6,993	41,642	9,180	26,190	77,012
	H29年産実績	722	151	561	1,434	8,125	6,219	6,060	7,116	58,659	9,384	33,997	102,041
	H30年産実績	480	176	731	1,387	8,479	5,537	5,429	6,497	40,662	9,771	39,667	90,100
	R元年産実績	495	135	667	1,296	6,578	4,659	4,241	5,176	32,536	6,279	28,286	67,102
	R2年産実績	487	202	647	1,336	7,811	5,854	5,532	6,412	38,039	11,830	35,789	85,658
	R3年産実績	479	198	829	1,506	7,993	6,098	5,932	6,608	38,250	12,089	49,191	99,530
	R4年度実績	391	146	857	1,394	6,619	3,752	3,875	4,631	25,866	5,490	33,190	64,546
	R5年増産計画	700	100	550	1,350	7,500	5,700	5,700	6,633	52,500	5,700	31,350	89,550
	R5年増産実績	346	198	691	1,235	6,794	5,434	10,783	5,520	23,491	10,783	33,891	68,165
	(対計画比%)	(49.4)	(198.4)	(125.6)	(91.5)	(90.6)	(95.3)	(189.2)	(83.2)	(44.7)	(189.2)	(108.1)	(76.1)
	(対前年比%)	(88.4)	(135.9)	(80.6)	(88.6)	(102.6)	(144.8)	(278.3)	(119.2)	(90.8)	(196.4)	(102.1)	(105.6)
R7年産増産計画	700	100	550	1,350	7,500	5,800	5,800	6,700	52,500	5,800	31,900	90,200	
2 その他指標の動向 令和4年産→令和5年産													
・株出栽培の割合		61.5%	→	55.9%	・さとうきび作農家戸数		1040戸	→	974戸				
・平均糖度		13.1度	→	13.9度									

<p>増産目標に対する位置づけ</p>	<p>令和5年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="481 263 1142 375"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>1,350ha</td> <td>6,633kg/10a</td> <td>89,550t</td> </tr> <tr> <td>(計画)</td> <td>1,235ha</td> <td>5,520kg/10a</td> <td>68,165t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和5年産の当初の増産目標は、収穫面積1,350ha、単収6.6t/10a、生産量89,550トン进行計画していたが、収穫面積の減少(1,235ha)と令和5年4月下旬から7月末までの干ばつ・小雨の影響で単収5.5トン/10aと低下し、生産量68,165トン(対比計画76.1%)の実績となっている</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	1,350ha	6,633kg/10a	89,550t	(計画)	1,235ha	5,520kg/10a	68,165t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	1,350ha	6,633kg/10a	89,550t										
(計画)	1,235ha	5,520kg/10a	68,165t										
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 雨天時にはハーベスター収穫が行えなくなるため、計画的な収穫、搬入に支障を来し、製糖期間の長期化に繋がっている ② 一部農家の意識は高いが、全体的に緑肥や堆肥による土づくりを行う農家が少ない ③ 共済制度活用が浸透しせず、加入率が低迷している 												
<p>令和5年産における取組方針</p>	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 作業受託体制の再構築(受託料金と収益性の検討)に向け、オペレータの育成、確保、管理作業受委託モデルの構築を行う ② 緑肥や、余剰バガス・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う他、新たな堆肥散布機の試作・効果の検討を行う ③ さとうきび増産プロジェクト会議や関係機関と連携して、制度の活用事例を広く周知しながら、農業共済及び収入保険制度の普及、加入促進に努める 												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																											
<p>① 効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の半分程度は農作業の受委託体制が整備された ・消費税が段階的に上がる中でも、受託料金は据え置き状態で長年課題となっていたことから、令和2年度に消費税10%込みの価格に改定した ・さとうきび収穫機械機能向上対策事業を活用し、ハーベスターの機能向上を図った(1台) <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="443 480 1402 668"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>106</td> <td>123</td> <td>111</td> <td>87</td> <td>99</td> <td>96</td> <td>191</td> <td>174</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産農家数は維持しているが、認定農業者数は再認定漏れがあり減少している ・植付、収穫等の受託者の実態把握が十分でない ・相対での作業受託を行っている地域があるが、組織的な取組となっておらず、代金決済システムや継続性に問題がある ・高齢者等の所有地の流動化を促進させるため、相談体制の仕組みづくりが必要 		H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	認定農業者	106	123	111	87	99	96	191	174	農業法人	0	1	0	1	1	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者・新規就農者の育成を促進するとともに、認定農業者の再認定漏れを無くす ・農地中間管理事業を活用し、利用集積を推進する
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																					
認定農業者	106	123	111	87	99	96	191	174																					
農業法人	0	1	0	1	1	—	—	—																					

②農業共済制度への加入促進

【実施した取組】

・関係機関と連携し、生産者要件審査やイベント等でのパンフレットによる周知活動による加入促進を図った

【目標の達成状況】

	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)
加入戸数 (戸)	424	416	419	344	330	330	318	284
戸数引受率 (%)	41.0	37.2	39.6	33.0	30.4	30.4	31.4	
引受面積 (ha)	619	580	514	454	476	475	451	365
面積引受率 (%)	43.1	41.8	39.6	34.0	31.6	35.6	32.4	26.2
共済金額 (千円)	558,616	512,937	498,135	463,136	451,213	442,483	-	-

注) R4、R5 年産の数値については概算値

【課題】

- ・農家の多くが65歳以上で、規模縮小、保険非該当が多いため、不満で辞退する事例がある
- ・共済保険に加入したが掛金未納入があり、契約解除となるケースがある
- ・共済制度活用が浸透せず、加入率が低迷している
- ・台風や干ばつなど災害頻度が高く、農家負担掛け金の負担が大きい
- ・収入保険制度について農家の認識が不足している

・さとうきび増産プロジェクト会議や関係機関と連携して、制度の活用事例を広く周知しながら、農業共済及び収入保険制度の普及、加入促進に努める

(2) 生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題									今後の取組方向																																				
<p>① 気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防風林の整備及び普及が進んだ 石垣市で、沖縄県防風林の日のイベントを行い、防風林の重要性を周知した <p>【目標の達成状況】 (単位: %)</p> <table border="1" data-bbox="443 475 1400 815"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 実績</th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>72.8</td> <td>72.9</td> <td>73.0</td> <td>73.2</td> <td>73.6</td> <td>74.2</td> <td>75.1</td> <td>75.5</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>73.3</td> <td>73.5</td> <td>73.9</td> <td>74.2</td> <td>74.4</td> <td>74.7</td> <td>76.5</td> <td>76.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防風林の整備は進んでいるが、ほ場整備状況に追いついていないことから、台風時における潮害等の影響で生育阻害が著しい 農地防風林の整備及び雑草防除を含めた防風林の維持管理が必要 かんがい施設の未整備地区における干ばつ被害による単収の低下が著しい 										H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	ほ場整備率	72.8	72.9	73.0	73.2	73.6	74.2	75.1	75.5	水源整備率	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	87.5	87.5	畑地かんがい整備率	73.3	73.5	73.9	74.2	74.4	74.7	76.5	76.8	<ul style="list-style-type: none"> 農地防風林の整備及び管理対策の更なる推進 既存のかんがい施設有効利用を推進 施設未整備地区における水源の確保を推進 干ばつ耐性の品種植付推奨
	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込																																						
ほ場整備率	72.8	72.9	73.0	73.2	73.6	74.2	75.1	75.5																																						
水源整備率	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	87.5	87.5																																						
畑地かんがい整備率	73.3	73.5	73.9	74.2	74.4	74.7	76.5	76.8																																						

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の開催等によりオペレータの育成を図った ・さとうきび収穫機械機能向上対策事業を活用し、ハーベスターの機能向上(1台)を行った <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="443 331 1400 595"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスター 稼働台数</td> <td>27</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>32</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>ハーベスター 収穫面積</td> <td>927</td> <td>1,177</td> <td>1,163</td> <td>1,124</td> <td>1,162</td> <td>1,354</td> <td>1,238</td> <td>1,123</td> </tr> <tr> <td>ハーベスター 収穫率(面積)</td> <td>84.2</td> <td>82.1</td> <td>83.8</td> <td>87.0</td> <td>86.9</td> <td>89.9</td> <td>88.8</td> <td>90.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業機械のオペレータが不足しており、引き続き育成・確保が必要 ・地域によっては機械整備率が低く、管理作業に遅れが生じている ・雨天時にはハーベスター収穫が行えなくなるため、計画的な収穫、搬入に支障を来し、製糖期間の長期化に繋がっている 		H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	ハーベスター 稼働台数	27	29	29	30	32	33	32	31	ハーベスター 収穫面積	927	1,177	1,163	1,124	1,162	1,354	1,238	1,123	ハーベスター 収穫率(面積)	84.2	82.1	83.8	87.0	86.9	89.9	88.8	90.9	<ul style="list-style-type: none"> ・作業受託体制の再構築(受託料金と収益性の検討)に向け、オペレータの育成、確保、管理作業受委託モデルの構築を行う ・機械整備率の地域間格差を是正し、適期株出管理作業の推進を図る ・平成31年1月策定『石垣市農業機械等整備計画』に基づいた、ハーベスター導入の推進、農業機械士会への担い手の加入促進を図る
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																														
ハーベスター 稼働台数	27	29	29	30	32	33	32	31																														
ハーベスター 収穫面積	927	1,177	1,163	1,124	1,162	1,354	1,238	1,123																														
ハーベスター 収穫率(面積)	84.2	82.1	83.8	87.0	86.9	89.9	88.8	90.9																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市補助(赤土等流出防止営農対策促進事業)及び製糖工場単独助成により緑肥栽培を推進した ・土壌分析の活用により、品種特性に応じた施肥設計について啓発を行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥散布機(3条すじ撒き)の故障もあり、たい肥のきび畑への利用が少ない ・一部農家の意識は高いが、全体的に緑肥栽培を行う農家が少ない ・耕土流出による地力低下や赤土流出が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家に対し、土づくりや赤土流出防止対策の啓発を強化する ・緑肥や、余剰バガス・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う他、新たな堆肥散布機の試作・効果の検討を行う ・株出栽培や園芸作物との輪作体系の推進、赤土流出防止対策協議会と連携しグリーンベルトの設置等を行うことにより赤土流出防止対策を推進する 																																				

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
<p>①病害虫対策</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除協議会で野ソ一斉防除の周知を徹底し、野ソ駆除剤(ヤソジオン・クマリン)の一部補助(石垣島製糖㈱30%、市15%)を実施した ・有害鳥獣対策事業を活用し、ワイヤーメッシュを設置した(総延長:3,509m 地区名:伊原間地区(9ヶ所)) ・イノシシ防除対策として、製糖工場による電牧購入資材助成を実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤価格が上昇し、経費負担の増加から薬剤防除の不徹底が懸念される ・共同防除、一斉防除等の組織的防除体制を確立する必要がある ・有害鳥獣対策を実施しているが、イノシシ等の有害鳥獣被害が高止まりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の高い農薬資材等の使用回数減、フェロモンや植付時期のスライド化等、耕種的防除を含めた総合防除を推進する ・総合防除の推進、防除農薬の適期散布、野鼠の全島一斉駆除を実施する ・有害鳥獣対策事業を活用し、イノシシの侵入防止柵の導入などの被害防止対策に努める 																																																						
<p>②優良品種の選択・普及</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立研究開発法人農業・食品生産技術総合研究機構からさとうきび原原種を受け入れ、原苗ほを設置、配布した <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="443 1015 1402 1278"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 (実績)</th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林8号</td> <td>3.7</td> <td>3.0</td> <td>3.4</td> <td>3.9</td> <td>2.2</td> <td>1.3</td> <td>1.4</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>3.1</td> <td>1.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>19.6</td> <td>18.8</td> <td>20.7</td> <td>22.8</td> <td>23.8</td> <td>23.7</td> <td>22.5</td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>農林25号</td> <td>42.0</td> <td>46.0</td> <td>39.0</td> <td>27.5</td> <td>19.7</td> <td>19.5</td> <td>20.5</td> <td>19.9</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>24.1</td> <td>13.0</td> <td>26.5</td> <td>34.9</td> <td>43.6</td> <td>45.2</td> <td>45.3</td> <td>42.0</td> </tr> </tbody> </table>		H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	農林8号	3.7	3.0	3.4	3.9	2.2	1.3	1.4	1.1	農林15号	3.1	1.5	-	-	-	-	-	0.1	農林22号	19.6	18.8	20.7	22.8	23.8	23.7	22.5	18.9	農林25号	42.0	46.0	39.0	27.5	19.7	19.5	20.5	19.9	農林27号	24.1	13.0	26.5	34.9	43.6	45.2	45.3	42.0	<ul style="list-style-type: none"> ・優良品種の普及について、早生、晩生品種の組み合わせによる平準化や、一定の品種のみに偏らないように啓発を図る ・品種の平準化による経営のメリットについて周知し、2品種以上の栽培によるリスク分散の普及啓発を図る ・種苗管理センターより原原種を受け入れ、原種ほ(開発組合に委託)から生産された苗を農家に無償で配布する
	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)																																																
農林8号	3.7	3.0	3.4	3.9	2.2	1.3	1.4	1.1																																																
農林15号	3.1	1.5	-	-	-	-	-	0.1																																																
農林22号	19.6	18.8	20.7	22.8	23.8	23.7	22.5	18.9																																																
農林25号	42.0	46.0	39.0	27.5	19.7	19.5	20.5	19.9																																																
農林27号	24.1	13.0	26.5	34.9	43.6	45.2	45.3	42.0																																																

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌特性にあった品種を選択し、製糖期間を通じて高品質な品種について経営規模に対応できるような品種の平準化が必要である ・優良種苗増殖は、県と市で委託契約を締結して行っている。しかし、種苗輸送費については、市単独で負担となっているので、離島の基幹作物を守るうえで、輸送費まで含めた種苗増殖事業の見直しが必要である 	
<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会によるセーフティネット事業を活用した農薬購入助成を実施した ・適期植付・株出管理展示ほの設置に加え、集落毎の栽培講習会や生産者向け鳥獣対策講習を開催した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託体制が整備できていない地域で適期植付や肥培管理ができていない傾向にある ・株出面積が拡大傾向にあるため、単収増に向けた適期株出管理を推進する必要がある ・肥培管理が不十分である(肥料不足) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証展示ほの設置による適期植付、適期肥培管理の重要性を周知する ・肥料購入費助成を継続し、適期肥培管理の徹底を推進する ・適期植付、適期肥培管理による増収効果の啓発を行う